

研究・調査報告書

報告書番号	担当
6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Diet synergies and mortality—a population-based case-control study of 32,462 Hong Kong Chinese older adults. 食餌の相乗作用と死亡率——32,462人の香港在住高齢者を対象とした症例-対象研究	
執筆者 Schooling CM, Ho SY, Leung GM, Thomas GN, McGhee SM, Mak KH, Lam TH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Int J Epidemiol. 2006; 35(2): 418-26.	
キーワード 食餌、相乗作用、死亡率、喫煙、高齢者、症例-対象研究	
要 旨 目的： 食餌と飲料は個別に摂取されるのではないため、栄養素吸収全体に対して促進や阻害する相補的作用がある。本研究では食物、飲酒、喫煙の組合せが死亡率に対してどのような影響を及ぼすかを検討した。	
方法： 60歳以上の中国人高齢者で1998年に死亡した21,494例(全死亡記録例の81%)と生存10,968例を対象とした症例-対象研究でロジット解析を用いて健康食品、非健康食品、喫煙、および飲酒が死亡率にどのように影響したかを検討した。	
結果： 果物、野菜、大豆製品や魚などの健康食摂取が少ないと総死亡率が有意に増加し($P<0.001$)、さらに肉や乳製品などの非健康食摂取が多いことが加わると死亡率増加は著明であった(交互作用 $P<0.001$)。非健康食摂取に加え喫煙経験がある人や定期的に茶を飲まない人では死亡率上昇が著明であった ($P<0.001$)。一方飲酒と死亡率の関係は非健康食摂取量によって影響された。すなわち非健康食摂取が少ない群では飲酒と死亡率の関係はU型、中等量摂取群では大量飲酒群で総死亡率が増加するJ型を示し、非健康食摂取が最も多い群では非飲酒者の死亡率が最も高い型(左右逆J型)を示した。	
結論： ある種の食品の摂取は他の食品の健康に対する影響を修飾する。食餌、飲料、喫煙の相補的影響と相乗作用の可能性を考慮した解析は今後栄養疫学に対する貢献は大きいであろう。	